

有様を叙し、一は之か發達完成せる元朝のものを知らんとするに外ならざるなり。

## 上 漠北時代の驛傳

元史兵志站赤の篇に曰く『元制站赤者驛傳之譯名也、蓋以通達邊情、布宣號令、古人所謂置郵而傳命、未有重於此焉』と、站は蓋し蒙古語 *jan* の音譯にして驛の意に外ならず、ポーチエー Pauthier 氏がマルコ・ポロ Marco Polo 旅行記の註釋に於て *jan* を驛馬の音の轉訛なりと見(三三五頁)シュレーゲル Schlegel 氏が通報一八九一年第二號に於て之を駁して、站を寫せるものとせるか如きは、共に本末を誤まれるものなること明らかにして、却りて類音なる站 (*chan*) を以て蒙古語 *jan* を寫したるものならざるへからず、而して、站なる語か驛舎の意として用ゐらるゝに至りしは、實に之を以て始めとするか如し、赤は蒙古語にて *ci* なる接尾語を加へて、事を爲す人即ち買ひ手、賣り手、等の意味を示すことありて、元朝秘史には *jançi* (驛の事務を司とる人) 等の職名も見ゆれは一見之を寫せるか如くなるも、然も站赤とはことにては單に驛傳の意にして、其事務を司とる人の意にあらず、Bretschneider 氏は説を立てて赤は外國語を寫す時に用うる接尾語なりといふ、其根據の何つれにあるやを知らずと雖、之を秘史 (*Niucha Tobchan*) の漢譯に見るも、尙ほ *jan* なる語を譯するに站赤の二字を以てせり、要するに蒙古に支那驛傳の法を傳へて、之を *jan* と稱せしなり、抑も支那に驛傳の存するや、遠く其起原を古に求むへし、されとその制頗ふる簡略にして、未だ國家至重の機關として意を用ゐたるには至らざりしか如く、能く此の如きに至りしはもとより元代のことにして、假令其起原を支那に有するとするも、その細微の制に至りては蒙古の獨創と見